

インベストメント バンキングユニット

お客様の「問題解決業」の担い手として

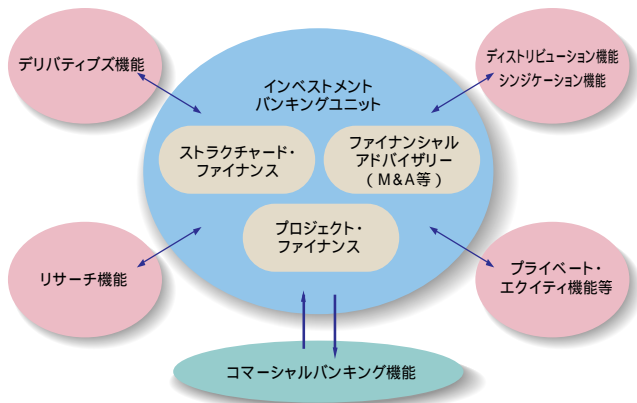
お取引先のニーズの多様化・高度化に呼応し、経営戦略、財務戦略の策定等の提案型金融サービス提供による「ソリューション・ビジネス」を展開致します。

インベストメントバンキング

法改正・新会計制度導入に伴い、バランスシートコントロール等財務戦略に対するお取引先のニーズは年々増大しております。また、企業価値・株価を意識した経営マインドの浸透を背景に、戦略部門強化、非コアビジネスの整理、グループ内企業の整理・集約化等々お取引先の経営戦略・事業戦略に係わるアドバイスワークへのニーズも一層の高まりを見せております。

一方、国内におきましても、PFI(Private Finance Initiative)等資金調達的手段として、プロジェクト・ファイナンスの手法を活用する動きが活発化してきております。当行では、このようなお取引先の多様化・高度化・複合化していくニーズに機動的にお応える為、ストラクチャードファイナンス部、企業投資情報部、プロジェクトファイナンス部の3部を、グローバルに一体運営する為にインベストメントバンキングユニットとして立ち上げました。デリバティブズ機能・リサーチ機能・ディストリビューション機能等々、興銀グループ内の諸機能をフルに活用しながら、お取引先が抱える問題を解決する「ソリューション・ビジネス」を展開し、お取引先に最初に相談相手として選んで頂ける「First Call Bank」を目指します。

インベストメントバンキングの概念図

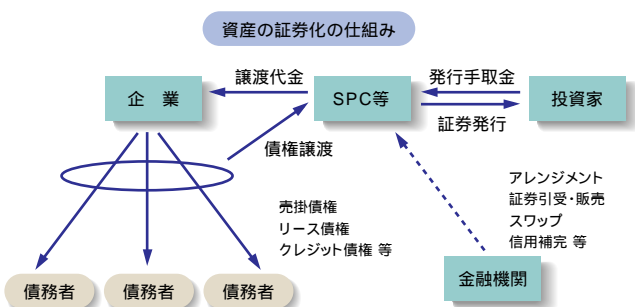


ストラクチャード・ファイナンス

高度化する財務ニーズに対応する新しい金融サービスのご提供

ストラクチャード・ファイナンスとは、お取引先の財務ニーズに合わせて各種のファイナンス・スキームを構築したり、新しい財務商品を開発・提供することです。その中核を成すセキュライゼーション(証券化・流動化)は、米国で発達を遂げましたが、最近の日本経済・金融環境の大きな変動、各種法制・会計基準の改変等もあり、お取引先のセキュライゼーションに寄せる関心が高まり、それにつれて市場も急速に広がりを見せております。当行は、米国における経験も活かし、こうした流れに対応した組織を整え、市場の拡大を先取りした業務展開にいち早く取り組んで参りました。近年のお取引先の多様化・高度化する財務ニーズを、敏感かつ的確に捉え、そのニーズにお応える新しいファイナンススキームの構築に取り組み、技術的にも邦銀のトッププレイヤーとして、お取引先から評価を頂いております。現在、これまで培ったノウハウにより、金融資産(売掛債権やリース債権・クレジット債権等)の流動化・証券化はもとより、第一生命保険(相)の保有する複数の優良賃貸オフィスビルに係わる不動産証券化等、証券化対象資産の拡大や、手法の拡充に努め、

債権流動化スキーム



また証券化・流動化のアプローチの応用として、従来の手形での支払に代えて納入業者に資金を供給するファクタリングスキームを開発(特許申請中)する等、金融技術とIT(インフォメーションテクノロジー)の融合をも図ることにより、新たな金融サービスの開発に努めております。更に、レバレッジドリース(^{*1})やシンセティックリース(^{*2})等の各種のリースファイナンススキームのアレンジメントを通じて、お取引先にとって低利かつ多様な資金調達手法を提供するとともに、オフバランス化を実現することにより、バランスシートの圧縮、財務諸比率の改善に資するお手伝いを行っております。

投資家ニーズを踏まえた金融仲介機能

一方で、資産担保CP・資産担保証券等や、リースファイナンスに係わる投資は、お客様のニーズに合った運用商品としてお役に立っております。即ち、お取引先の資金調達やオフバランス化のニーズと、投資家の運用面でのニーズを、ストラクチャード・ファイナンスの手法を使用し、結びつけることにより、投資家が許容できるリスクとリターンに商品を構成することが可能となります。利益の追求とリスクの管理を求めめるお客様に対して低金利下での運用利回りの向上を図ることは勿論、運用期間の多様化等個々のお客様のご要望にお応えする運用商品を提供していくことは、多様で幅広いお客様層を創出することになり、ストラクチャード・ファイナンス市場の拡充に大いに役立っております。

バランスシートマネジメントを通じ 財務戦略構築のお手伝い

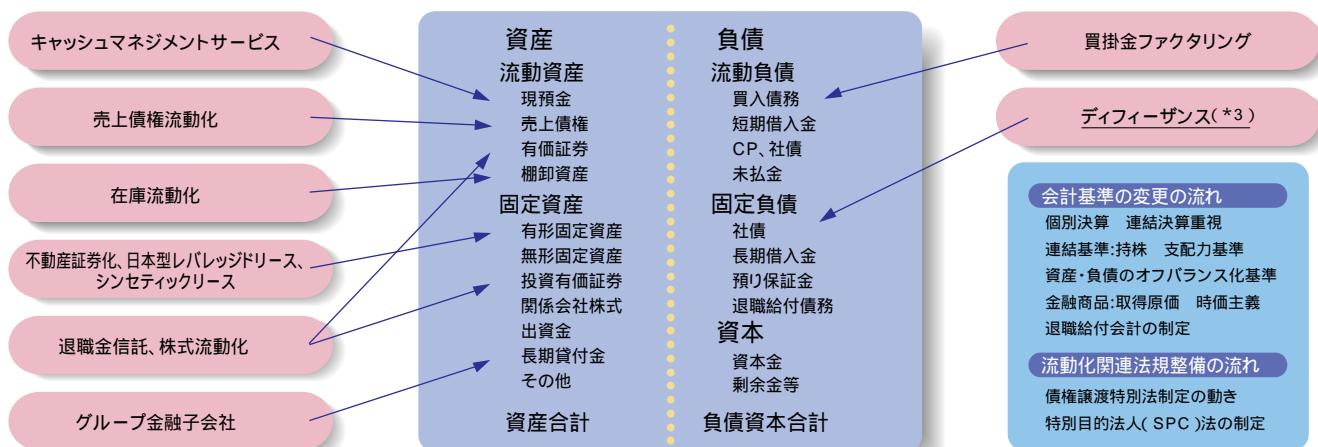
金融ビッグバンに歩調を合わせ、日本の会計基準は国際会計基準・米国会計基準の連結会計重視、時価会計主義等の流れを踏まえ、大きく変化しております。当行はこのような大きな流れを的確に捉え、より重要となってきた企業のバランスシートマネジメントニーズにお応えする為研究を進め、様々な金融技術を駆使し、各種スキームのご提案を行っております。

会計基準の大きな変更点の一つとして、単体主義から連結主義への移行、連結基準も持株基準から支配力基準に変わることが挙げられます。グループ全体の資産・負債のマネジメントの効率化及び資金面での合理化といった観点から、当行は流動化・リース・信託等の手法を用いたスキームや、お取引先グループ内資金決済の効率化をご提案し、活用されております。

また、新しい退職給付会計基準の導入に伴う退職給付債務問題につきましても、他行に先駆け、株式の活用ニーズをも取り込んだストラクチャーを組成し、退職給付債務の実質的削減を達成するお手伝いもしております。

このようにお取引先の重要な経営課題を、金融技術の点からサポートしていくことが、これからのストラクチャード・ファイナンスの柱になると思われまます。

企業バランスシートとストラクチャード・ファイナンス



用語解説

- (* 1)レバレッジドリース
投資家の出資金と金融機関からの借入金を組み合わせ、低利資金調達を可能とするリーススキーム。
- (* 2)シンセティックリース
米国会計基準上、オフバランス処理が可能となるリーススキーム。

- (* 3)ディフィーザンス
信託を活用した負債の実質償還スキーム。

グローバル企業の総合アドバイザー

専門スタッフによる高度なサービス

急速な世界情勢の変化により各国の投資環境が日々変化する中、当行は、グローバルな展開を進めるお取引先のニーズにお応えする為、進出地域の選定からその地域特有の投資に当たっての留意点のアドバイス、合併パートナーの紹介、交渉のサポート、資金調達に至るまで、トータルなサービスを提供しております。とりわけ資金調達につきましては、長年培ってきた各国の制度金融や国際金融に関するノウハウと経験をベースに、多様な金融手法を駆使し、最も適したスキーム作りを目指しております。また、既に進出されたお取引先、更には一部地域によっては当面の経済環境から撤退を余儀なくされるお取引先に対し経営上の諸課題についての専門的なアドバイスを提供するケースも増えてきております。

世界を結ぶ架け橋として

当行は、世界の主要地域をカバーする海外拠点網を活用し、日本のお取引先のみならず、海外に本拠を持つお取引先の日本への投資や日本以外の地域への投資に対するアドバイス業務も展開しており、「世界の興銀」として、グローバルなレベルでのサービスの向上に努めております。

海外進出のトータルアドバイザーとしての当行のこれらの活動に対しては、各方面から高い評価を頂いており、各国政府機関・国際機関からも投資促進の為の協力要請が寄せられております。

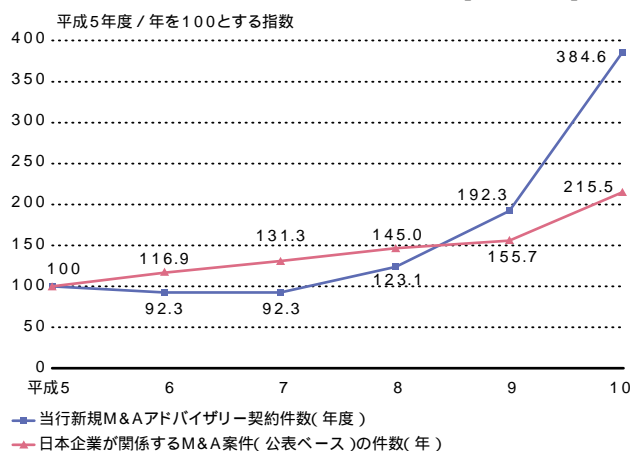
尚、本年1月には、中国国家開発銀行との間で同国における投資銀行業務分野に関する協力協定を締結し、内外投資家の幅広いニーズにお応えする体制を整えつつあります。

M & A

経営戦略構築のお手伝い

日本経済の構造的改革が速いテンポで推し進む中で、事業価値・株価を意識した経営マインドの浸透に加えて、企業会計基準及び法人税制の改革、更には持株会社制度の解禁等を受けて、戦略部門強化、非コアビジネスの整理、グループ内企業の整理・集約化等々の動きが一層活発化しており、日本にもグローバルな切り口での本格的な“M & A”の時代がはいよいよ到来したと言えます。

当行新規M&Aアドバイザー契約件数の推移[指数表示]



当行は、長年培ってきた幅広いお取引先企業とのリレーションシップに基づき、米国子会社ブリッジフォード・グループを含む当行のグローバルなネットワークも駆使して、あくまでもお取引先の立場に立った長期的かつ総合的な観点からのきめの細かいM&Aアドバイザー・サービスのご提供に注力しております。

また、本年4月には、英国の大手ベンチャーキャピタル会社スリーアイ社との間で日本におけるMBO取引^(*1)についての投資アドバイス業務推進の為の合併会社スリーアイ興銀バイアウト(株)を設立、これに合わせ、総額200億円のMBOを対象とする投資ファンドを立ち上げる予定です。



用語解説

(* 1) MBO(マネジメント・バイアウト)

子会社あるいは企業の事業部門等において、既往事業の継続を前提に経営者、外部投資家等が株式を買い取り、経営権の取得を行う取引。

プロジェクト・ファイナンス

プロジェクトの資産と収益を担保として資金調達を行うプロジェクト・ファイナンスは、伝統的には、資源・エネルギー・一次産品といった分野を中心に行われてきました。しかしながら、最近では先進国、途上国を問わず、従来公的部門により進められてきた電力・通信・道路等の分野においても民間資本の参入が活発化するとともに、資金調達手段の一つとしてプロジェクト・ファイナンスの手法が盛んに活用されるようになってきております。

グローバルに認知された評価

プロジェクト・ファイナンスの分野でリーディングバンクとなる為には、プロジェクトの初期段階から案件に関与し、プロジェクトのリスクを分析し、実現に向けスポンサーを支援する一方、貸し手が取り得るリスクの内容と程度を見極めながらファイナンスを組成していく能力が大切です。当行はこの分野に早くから取り組んできており、数々の実績を挙げる中で、以後モデルケースとなるようなプロジェクトスキームをいくつも生み出し、市場から高い評価を受けて参りました。近年では、英国AESバリーガス火力発電所プロジェクトにおいて、電力販売価格の変動リスクを回避する画期的な金融手法が高く評価されたこと、中国山東省石炭火力発電所プロジェクトにおいて、アジア通貨危機以後の逆風下の中、考えられる限りの金融手法と工夫を尽くして案件をまとめ上げた実績が高く評価されたことが特筆されます。

また、当行は海外のプロジェクトのみならず、日本国内におきましても、プロジェクト・ファイナンスの手法を活用したPFI(*2)に積極的に取り組んでおります。

重点戦略分野の一つとして更なる強化

当行は現在、東京を本部として、ニューヨーク、香港、ロンドンの各拠点に約50名の専門家から成るチームを配し、グローバルにプロジェクトを捕捉する体制を取っております。応用範囲が広く、リスクマネージメントの観点からお取引先の経営戦略の手助けとなるプロジェクト・ファイナンスは、当行を特徴付ける重要な金融サービス機能の一つであり、今後一層の強化を図って参ります。

最近の当行幹事の主要プロジェクト

資源・エネルギー	プレミエール・トランスコ・ガスパイプライン(英国) ロス・ベランプレス銅山開発(チリ) オセンサ石油パイプライン(コロンビア) ラスラファンLNG(カタール): 1996年中近東ディール・オブ・ザ・イヤー(Project Finance International誌)
石油化学・素材	日本・サウジ合弁(シャルク)石油化学(サウジアラビア) ケムヤ石油化学(サウジアラビア) イブン・ラシュド石油化学(サウジアラビア) SUS鉄鋼冷延(タイ)
電力	山東省石炭火力発電所(中国): 1998年電力ディール・オブ・ザ・イヤー(Project Finance誌) ほか AESバリーガス火力発電所(英国): 1997年電力ディール・オブ・ザ・イヤー(Project Finance誌) KEGCOガス火力発電所(タイ)
その他インフラ	オートリンク(M6)道路(英国) オートリンク(A19)道路(英国) 香港エアー・カーゴ・ターミナル(香港)



用語解説

(*2)PFI(Private Finance Initiative)

従来公共部門によって建設・運営されていた諸分野に、民間部門の資金調達・経営ノウハウを活用しようとする動き。